

## ロサンゼルス サイナイテンプル ラバイ デイビッド・ウォルペ氏

- ・「こんにちは」。私これしか知らないなので、ごめんなさい。
- ・皆様方のおもてなしと、日本と私の国アメリカ、日本とユダヤ人社会にとって、素晴らしい友好の場を設けていただいたことに感謝する。
- ・今私は名古屋にいるのでサムライに関わるお話しをしたい。
- ・猟師でも懐に飛び込んできた鳥は殺さない。
- ・窓の外に何千という人がそこに立っている。彼らは疲れ果てそして汚い服を着てわからない言葉をしゃべっている。ある人は家族を連れて、何か泣いたりわめいたりしている。たぶんほとんどの人が怖いと思って窓を閉めるだろう。
- ・これは今この世の中で起きていること。実際この世の中でどれだけの人が窓をしめ、心を閉ざし、扉を閉めてしまっているだろうか。
- ・しかし、昔、ある男の人が自分のところに助けを求めてきた人達に救いの手を差し伸べた。皆さん想像してみて。誰も助けたいと思わない人たちを助けようとする、それがどれだけたいへんなことか。
- ・皆さんのクラスの中で一人の友達がみんなに嫌われている、ちょっと疎外されている、そういう人に声をかけることがどれだけ勇気のいることか。
- ・外国人、皆さんとは違う種類の人があなただけを見ていると考えて。
- ・私は皆さんよりだいぶ歳をとっているのですが、皆さんに一つ人生についてお教えしたいことがある。
- ・皆さんの人生の中でいつか助けてくれと鳥があなただけの懐に入ってくるかもしれない。それは皆さんの友達か家族のだれかかもしれないし、全く知らないだれかかもしれない。
- ・どうするか決めるのは皆さん。その人たちのために心を開いて対峙するか、あるいは窓を閉めるように心を閉じてしまうか。
- ・あなたたちは素晴らしい学校で学び、そしてそこから巣立っていく。
- ・世界中が背を向けた、その人たちに皆さんの先輩杉原千畝氏は救いの手を差し伸べた。なぜならその人たちを見捨てることができなかったから。
- ・いつかあなたの懐に助けてくれと鳥が飛んで来たらぜひ腕を広げて受け止めてあげて。心を開いて受け止めてあげて。それを助けて愛を見せてあげてください。